

■登壇者

●西村浩（にしむらひろし）

・株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役

（2009年度、岩見沢複合駅舎設計でグッドデザイン大賞受賞）

1967年、佐賀県生まれ。1991年、東京大学工学部土木工学科卒業。1993年、東京大学大学院工学系研究科修士課程修了後、設計事務所勤務を経て1999年ワークヴィジョンズ設立。現在、北海道教育大学芸術課程特任教授、東京藝術大学美術学部デザイン科、日本大学理工学部社会工学科、お茶の水女子大学生生活科学部人間・環境科学科非常勤講師。

建築・土木・まちづくり等、常に「まち」を視野にいれ、分野を超えてモノづくりに取り組む建築家・デザイナー。2009年に竣工した北海道の「岩見沢複合駅舎」では、鉄道の街としての記憶を紐解きつつ、市民とともに駅舎づくりに関わり、日本建築学会賞（作品）、グッドデザイン大賞、鉄道建築協会賞・最優秀協会賞、北海道建築賞、北海道赤レンガ建築賞の他、ブルネル賞、アルカシア建築賞等、海外の賞も受賞。著書に、『グラウンドスケープ宣言 土木・建築・都市-デザインの戦場へ』（丸善、2004年5月、共著）、『まち再生への挑戦-岩見沢駅舎建築デザインコンペ作品集-』（北海道旅客鉄道(株)、2006年4月、共著）、『ものをつくり、まちをつくる GS 軍団メーカー職人共闘編』（技報堂出版、2007年1月、共著）、『駅・復権！-JR 岩見沢複合駅舎誕生とまち再生への軌跡-』（岩見沢複合駅舎完成記念誌制作委員会、2010年5月、共著）等。

●坂倉杏介（さかくらきょうすけ）

・慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所特任講師、三田の家 LLP 代表

2003年、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。地域コミュニティの形成過程やワークショップの体験デザインを、個人とコミュニティの成長における「場」の働きに注目して研究。キャンパス外の新たな学び場「三田の家」、地域コミュニティの拠点「芝の家」の運営を軸に、「横浜トリエンナーレ 2005」、「Ars Electronica 2011」など美術展への参加、大学内外での教育活動を通じて、自己や他者への感受性・関係性をひらく場づくりを実践中。共著に『黒板とワイン—もう一つの学び場「三田の家」』、『メディア・リテラシー入門—視覚表現のためのレッスン』（慶應義塾大学出版会）、『いきるためのメディア—知覚・環境・社会の改編に向けて』（春秋社）など。NPO 法人エイブル・アート・ジャパン理事なども務める。